



校章 昭和27年制定

令和7年度 学校要覧



初代校長:小岩井是非雄 像

校歌

昭和58年制定

島崎光正 作詞
飯沼信義 作曲

一 光をめざし

若草のように
空にのびよう

鉢伏のふもとの丘で
強く直く

二 ひとみをかわし
いずみのように

共に学ぼう

ひろがりの世界の中で
日々をあらたに

三 西山の雪

かがやくように
きよき望み

ひとすじの道につながる
われらが母校

長野県松本ろう学校

昭和3年(寺田五三子氏により創立)

〒399-0021 長野県松本市大字寿豊丘820

☎0263-58-3094 Fax0263-85-1411

寄宿舎☎・Fax0263-86-0100

ホームページ: <https://www.nagano-c.ed.jp/matsuro/>

E-mail: ht_matsuro@g.nagano-c.ed.jp

標高706m 北緯36度10分7秒 東経137度59分33秒



松本ろう学校HP
案内地図あります



【学校目標】

【重点目標】

声さわやか 心ゆたか 体げんき

- ①「声さわやか」に あいさつをする 自分の思いを言葉で伝える
- ②「心ゆたか」に 思いを感じる 知識を増やす
- ③「体げんき」に 健康な心と体づくりをする

＜松本ろう学校みんなの合言葉＞

わくわく にこにこ げんきな 松本ろう学校



＜学校運営のスローガン＞

つなぐ つながる つなげる



◆ つなぐ：幼・小・中・高が「個別の指導計画」や「個別的教育支援計画」に基づき「連続性のある一貫した」指導・支援をする学校

幼稚園

小学部

中高部

低学年・高学年

中学部・高等部

部等	幼稚園	小学部	中学部	高等部
目指す姿	相手への関心を持って聴く子 想像力豊かに表現する子	進んで自分を表現する児童 自分の思いを伝えようとする児童	自分から考え学ぶ生徒 人のよさを知り共に生きる生徒	主体的に自分を創る生徒 自己実現していく生徒
学校目標を受けて	①あいさつしよう ②なかよくしよう ③あそびをひろげよう	①よく聴こう・伝えよう ②友だちを大切にしよう ③体をうごかそう	①思いを伝え合おう ②共に学ぼう ③健やかに過ごそう	①伝え合え ②知を磨け ③健全であれ
こんな力をつける	・生活言語の充実 ・見て聴く姿勢の確立 ・ことばのやりとり	・表現手段の充実 ・安心して表現できる環境づくり ・きこえや障がいの理解・他者理解	・学習言語の深化 ・自己理解・他者理解 ・状況を理解する力	・情報収集力の深化・説明力 ・自律・挑戦 ・問題を解決する力



松本ろう学校・寿台養護学校寄宿舎 ～なりたい自分に向かって共に学び、暮らす共生～

- ①自分の気持ちや考え伝え合いながら生活しよう
- ②個々で定めた目標の達成を目指すと共に、仲間と支え合いながら楽しい生活をしよう
- ③規則正しく安心安全な生活をしよう

切れ目のない支援体制の構築：早期支援 幼児支援 通級指導 教育相談 キャリア教育 進路指導

- 適切なアセスメントに基づく個々のニーズに応じた個別の指導計画・個別的教育支援計画の作成→一貫した指導
- 基礎学力の向上 ①ともに学び楽しさが実感できる授業づくり ②日本語の力を核とした学力の向上 ③ICTの利活用 働く力の育成 ①言語力の向上 ②社会性の向上 ③体力の向上
- 学校教育・家庭教育・関係機関との連携

自立活動・キャリア教育の充実 幼児児童生徒それぞれが自信をもって自分らしく生きていく力を育む

◆ つながる：同世代の友との「交流及び共同学習」や「寄宿舎生活」の中で共に育つ学校

- ねらいを明確にした副学籍・居住地校交流や提携校との交流等を積極的に実施 集団の中での育ちをめざす
- 寄宿舎で見通しのある生活の中で、本校および寿台養護学校の豊かな関係づくり、安心安全な環境で社会生活力を育むための支援
- 地域のつながりの構築 学校だよりの回覧 学校公開やはと祭での発信 学校評議員会での情報交換

◆ つなげる：中南信地域聴覚障がい教育の「センターとしての機能」を発揮する学校

- 早期支援・幼児支援・通級指導・教育相談の充実
- 中南信地域の聴覚障がい幼児生支援（地域のネットワークの構築）のため医療・福祉・労働・各市町村・難聴児支援センター・学校・園などとの連携

《松本ろう学校教職員がめざす姿》

幼児児童生徒の「きこえ」を意識し、ありのままを分かち、考え合うチーム松本ろうをめざす

- 人権感覚を常に磨く 率先して人権を守り大切にする 「あなたはあなたのままでいいんだよ」を基本にした指導・支援
- 幼児児童生徒・保護者の願いや障がい特性に応じた一人ひとりの学びの場・学びの方法を共に考える 満足感や成就感を味わえる授業・生活づくりに努める 幼児児童生徒の実態観察に基づくアセスメント力の向上
- 授業力・生活支援力・障がい理解等の向上をめざし、実践を通して研究・研修に努める 校外・校内OJTの活用
- 「今日に満足し明日を楽しみに待つ」学校生活づくりに努める
- 個人（幼児児童生徒、保護者、教職員等）と社会のウェルビーイングの実現に努める

★長野県の特別支援学校において実現すべき学びの姿

- ・幼児児童生徒の可能性が最大限伸びる学び
- ・共生社会の実現に向けた協働の学び

★「令和の日本型学校教育」の構築をめざして

- 全ての子どもたちの可能性を引き出す
- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現にむけた授業改善

★令和7年度長野県特別支援学校重点項目

- 重点1 すべての幼児児童生徒に対し、1人ひとりのニーズに応じた教育を提供
- 重点2 特別支援学校の専門性の向上
- 重点3 地域や企業の方との協働の学びの充実
- 重点4 地元の同世代の友との交流及び共同学習の充実
- 重点5 幼保小中高等学校における特別支援教育の対応力の向上を支援





幼稚園 はと祭 劇発表



幼稚園 秋の遠足



中高部 読み聞かせ



小学部 ハロウィン



小学部 まとめの会 & 6年生をおくる会



中高部 強歩大会



寄宿舍 生活の様子

基本日課

幼稚園		小学部		中高部		寄宿舎	
9:00	登 校	8:25	朝の活動	8:25	朝の活動	6:00	起 床
9:15	個別指導	8:40	朝の会	8:35	朝の会/ SHR	7:00	朝のつどい・健康チェック
9:35	リズムの時間	8:50	1校時	8:50	1校時	7:40	朝 食
9:50	元気の時間	9:45	2校時	9:50	2校時	8:00	登校準備
10:20	おはようの会	10:30	休み時間			8:15～	登校(順次)
11:00	自由遊び	10:50	3校時	10:50	3校時	↓	
11:40	学級の時間	11:45	4校時	11:50	4校時	15:00～	下校(順次)
12:20	給食(お昼休み)	12:30	給 食	12:40	給 食	15:30	個人活動 学習・入浴 等
14:25	全体活動	13:35	5校時	13:35	5校時	18:00	夕 食
15:00	帰りの会	14:30	6校時	14:35	6校時	18:30	歯磨き
15:15	下 校	15:15	清 掃	15:30	清 掃	18:50	清 掃
15:25	個別指導	15:30	帰りの会	15:40	帰りの会/SHR	19:00～	個人活動 学習・入浴 等
※園庭交流等がある場合特別日課		15:45	下校	16:00	下校／部活	21:00	就 寝 ※学習延灯23時
※7カールパス出発16:00(水曜日:15:45)		水曜日:6校時なし 下校14:50		17:00	部活下校		

※スクールバス出発16:00(水曜日: 15:45)

幼児児童生徒数

部	年	男	女	計	合計
幼稚園部	3歳	1	1	2	5
	4歳	3		3	
	5歳				
小学部	1	1	1	2	6
	2	1	1	2	
	3				
	4				
	5	1	1	2	
	6				
中学部	1	1	3	4	7
	2	1		1	
	3	2		2	
高等部	1	1		1	2
	2	1		1	
	3				
合計		13	7	20	20

早期支援・幼児支援・通級指導 対応の状況（令和7年.4.1現在）

早期支援	0歳児② 1歳児⑪ 2歳児⑧	21
幼児支援	年少⑥ 年中④	10
通級指導	小学校⑪	11

教職員数

職種	男	女	計
校長		1	1
教頭		1	1
養護教諭		1	1
教諭	6	18	24
講師		4	4
早期支援指導員		1	1
早期教育相談員		1	1
実習助手		1	1
寄宿舎教諭	2	1	3
寄宿舎指導員	4	5	9
事務長	1		1
事務職員	1	1	2
管理栄養士		1	1
校用業務員	2		2
学校看護師		4	4
教員業務支援員等	1	3	4
学校医	2	2	4
学校薬剤師	1		1
療育支援員		1	1
合計	20	46	66

出身地別幼児児童生徒数

市町村等	幼	小	中	高	計
松本市		4	1	2	7
安曇野市		2	2		4
岡谷市	1		1		2
飯田市			1		1
その他	4		2		6
合計	5	6	7	2	20

高等部卒業生の進路状況 （平成26年度～令和6年度）

進学	4年制大学		3
福祉就労等	就労継続支援A型	2	17
	就労継続支援B型	13	
	就労移行支援	2	
就労	製造	7	14
	運輸・通信	3	
	卸売・小売・飲食	1	
	サービス	2	
	公務員	1	
計			34

校内相談窓口：校長室・保健室・職員室
困ったこと・相談等があればいつでも対応



きこえとことばの教育相談『ミミサポ』（松本ろう学校のセンター的機能）
難聴児支援センター等と連携しながら、聴力レベルにかかわらず、聞こえにくさのある子ども達が、地域で学習したり生活したりしやすくなるようサポートします。お気軽にご相談ください。
※ 飯田市立丸山小学校内で、月1～2回、0歳～2歳児の早期支援教室も実施しています。
また、本年度より3歳～5歳児の幼児支援教室を実施します。

幼稚園・保育園・学校の先生方から

- ・難聴のある子どもが在籍しています。職員研修をしてほしいです。
- ・一側性難聴等、聞こえにくさのある子どものために、どのような環境への配慮が必要ですか。
- ・集団生活の中で、特に気をつけたことは何ですか。
- ・水泳学習等、補聴機器を外した活動の時に配慮することは何ですか。
- ・英語のリスニングは、どのような配慮をしたらいいですか。

幼児・児童・生徒本人から

- ・きこえや補聴機器のことを友だちにも知って欲しいのですが、どうしたらいいですか。
- ・聞こえにくさのある（補聴機器をつけている）仲間と交流できる機会がありますか。
- ・集団生活の中で、どんなことに気をつけながら生活をしていったら、友だちともっと仲良くなれますか。

乳幼児保護者等から

- ・難聴があると言われました。どんなことを大切にしたいですか。
- ・「ことば」はどのように発達し、覚えていくのですか。
- ・よりよい発達を促すために、どのように関わったり話しかけたりすればいいのでしょうか。
- ・補聴器や人工内耳をつけるのを嫌がります。どうしたらいいですか。